

佐藤活希 (21811153ks@tama.ac.jp)

1. 目的と手法

本研究は、木下是雄の「レポートの組み立て方」[1]を参考に、「事実の記述」と「意見」を分離することの重要性を確認することを目的とする。この目的で、読売新聞社の社説[2]をとりあげ、題材や意見をできるだけそのまま残しながら、レポートとしてまとめる際の構成を検討した。

以下、「事実の記述」を寒色系、「意見」を暖色系で示す。

2. もとの社説の構成

もとの社説の構成を、図1に示す。

全体として、事実を述べている合間に意見が混入している。また、事実の記述であるのに断定を避けたり、意見とも取れる言い回しをしたりする部分があった。

3. 改善したレポートの構成

改善したレポートの構成を、図2に示す。

前半に事実の記述、最後に意見を書く様に構成を変更した。2. で指摘した部分を含めて事実の記述か、意見かを判別しやすい文章にした。

4. 改善点の例

1) 改変前「こうした被害について、判決が「生涯にわたって継続するものであり、その不利益は重大だ」と言及したのはうなずける。」

改変後「こうした被害について、判決は「生涯にわたって継続するものであり、その不利益は重大だ」と言及した。」

2) 改変前「家族の受けた苦しみは大きい。」

改変後 事実の記述に混入した、筆者の意見であるため削除した。

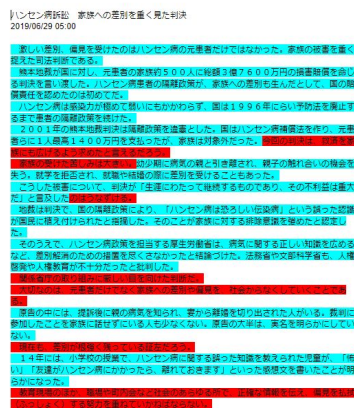


図1



図2

参考文献

- [1] 木下是雄「レポートの組み立て方」(筑摩書房)(1990)
- [2] 読売新聞2019年06月29日社説「ハンセン病訴訟 家族への差別を重く見た判決」

参考文献
読売新聞 2019/06/28 「ハンセン病家族訴訟、国に3・7億円賠償を命令」
https://www.yamim.co.jp/article/20190628-0Y11150249
NHK 2019/07/09 「ハンセン病家族訴訟、賠償額を決定」
https://www.nhk.or.jp/politics/articles/statement/19771.html
日本経済新聞 2019/06/09 「ハンセン病は命がかかる」 福岡の小学教師が提訴で始まる